【短歌】

楠瀬　兵五郎　選

底紅にピンクに木槿（むくげ）の花咲けりたのしみ挿しし年は忘れき　門田　喜美

我が村の血の流れたる歌手として三山ひろしを聴く夜のしじま　森本　幸美

濡れ縁の遂に崩れぬ住む人の久しく家に帰りまさねば　小原　子川

学校よりわれの出したる慰問文返書をくれし兵士忘れず　有澤　春江

扇風機のスイッチ切りて抜ける風われらが省エネ夫婦午睡す　高野　和一

となり家の友の退院はれやかに庭のつつじが真紅に祝ふ　有沢　泰子

堤防を刈りたるあとに鳩の群れどこから来るのか群れに驚く　鍵山　春子

いたずらな嫌わるる鴉（からす）と思えども二羽並びしはいと睦まじき　尾立　かよ

刻一刻変化してゆく映像にわが感動す皆既日食　竹村　稔美

杖をつくも車椅子にて集まるも顔みな明るし三時のロビー　森　晶子

どこまでも荒れ狂うこの国の世相次の選挙できっと良くなる　横田直加子

大土佐の夕立去りて虹の橋しろくかすみて大気に還る　大石紗智子

まだ見えぬホタル待ちつつ清き谷眺めてひ孫迎えん思い　山﨑　緑

北の国よさこいソーランメタル受く喜びぐつと噛み下すなり　法光院俊子

日々のニュースに厭（あ）きぬ先の世を気づかふ老のぐちでありたし　鍵山　みつ

切り花は十七日もピンとして背すじ伸ばしたあの人に似る　古屋　由美

丁寧に目を見てよく聴き受け止める君は出来るぞ何でも出来る　宮地　亀好

死すと聞くマイケルジャクソン歌以上顔も色艶もああ五十というに　伊藤　清子

橋の下に赤潮いよいよ極まりぬ農に通う度に見る物部川　佐々木真里

おだやかな日和つづきしここ幾日熟穂にぎりて田の畦に立つ　小野川惠仁

水木の花アオダモの花更に高く杉の木にかかる藤波のはな　小松もとみ

臭木（くさぎ）の花今年もここに咲き出でて少し触れゆくたち来る思ひに　坂上のぶ子

沈下橋ケイタイに撮り見せくるるダバダ火振のみやげとともに　佐竹　玲子

手を触れてみたしと思ひぬ展示棚に色滑らかなる須恵器の碩（すずり）　岡林　華伝

いつもの席のくさか里樹さん鉛筆を走らせてゐる午後の喫茶に　都築　初代

日本にもクリントン氏現れて拉致されし皆つれ帰り来よ　山下　弓枝

手の窪にほんの幾粒あれば足る崩れゆく塀の零余子（むかご）の蔓（つる）よ　町　耿子

新しき観光道に登り来て青葉繁れるわが町を見つ　谷内　務

打ち水をすれば清（すが）しと言いし夫庭をし掃けばひぐらしの鳴く　吉本　悦子

太き眉に白きものまざりいて寄りそいて来しこし方思う　公文　千恵

十六夜の月の世界に遊べるか祖母の寝顔に猫の寄り添ふ　山﨑　貴子

暑き日の行事でありし鮴（ごり）押しの風景消えて半世紀過ぐ　坂本　好

片付かぬ家にいつしか夏来り網戸の側に猫の眠れる　小野寺朱実

絡み合ふゴーヤの蔓を導けばあらがふほどに匂ひを放つ　大石　綏子

別府峡のあじさゐ濃ゆき遊歩道花を愛でつつひととき憩ふ　門田　明子

それぞれに生きゆく術の備はるや窟蟇（くつがま）は犬に毒を吹き出す　北村佐喜子

荷駄負へる馬ひく男をまぼろしに「塩の道」よりふく青葉風　公文　正子

竈（かま）屋には神棚があり井戸があり襷（たすき）掛けの母が水を汲みをり　高橋　章

畦の草剃り上ぐる如く刈られゆき稲の青みは映えつつ揺るる　武内　弘子

母白寿とろとろと眠りつつ何を夢みるかほのかにわらふ　竹村　咲子

網戸ごしになびく灯籠亡き夫の立てる笑顔の風に吹かるる　林田　幸子

ひらがなは学び終へしと胸を張り「婆ちゃんの短歌手伝へる」とも　古川　安子

青き穂の中稲（なかて）は波にうねりゆくこころ遂げゆくごとき思ひに　楠瀬兵五郎

※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。投稿方法は自由です。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】香美市役所企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係

〒782−8501（住所記載不要）　FAX53−5958

図書館だより

市立図書館

～ちいさなときから　本はともだち「どんぐりの会」夏の拡大版～

7月25日、香北分館で小さな子どもと保護者のためのおはなしの会を開催し、育児サークル「たんぽっぽ」の杉村彩さんに、小さな子どもの本の選び方や読み聞かせについてお話をしていただきました。杉村さん自身絵本が好きで、子どもと共に絵本の世界を楽しみ、親子で触れ合い、時間を共有してきています。そこから、子どもが心の落ち着きを得て、世界が広がっていくのではと先輩お母さんとして経験を語り、また「一人での選書は偏るので友達と本の情報交換をしましょう」とアドバイスをしていただきました。参加した母親たちは「大いに参考になった」「難しい本でなくても、本を見ていることが当たり前になればいいと聞き安心した」「どんどん本を読んで感受性を育てて欲しい」と感想を寄せてくれました。

改めて、本はいつも側にあって励まし、元気や心にゆとりを与えてくれる生涯の"ともだち"だということを痛感させられるお話でした。お母さん、お父さん、色々な本を読んでお子さんのお気に入りの本をみつけてあげてください！

新着本の紹介（物部分館）

【大人向け】

▽つばさ11号の殺人（西村京太郎）▽かあちゃん（重松清）▽彼女について（よしもとばなな）▽ゴーマニズム宣言SPECIAL天皇論（小林よしのり）

【子ども向け】

▽えんふねにのって（ひがしちから）▽かえりみち（森洋子）▽給食番長（よしながこうたく）▽飼育係長（よしながこうたく）▽あいさつ団長（よしながこうたく）

おすすめの1冊

「たいせつなことはみんな子どもたちが教えてくれた」

（作：きむらゆういち）

きむらゆういち、といっても吉本興業のキム兄のことではありません。「あかちゃんのあそびえほん」「あらしのよるに」などで知られる絵本作家です。父の死もお金が無いこともみんなプラスにしてきたという作者の、自伝的エッセイは読みやすくて一気に読めます。３人の子どもの父親としての経験からなる子ども論を、子育て中の方はぜひ読んでみてください。ちょっと自分の子どもを褒めてあげたくなると思いますよ。

30代女性（物部町）

吉井勇記念館だより

山峡の夕べ　―月とヴァイオリン―

十五夜に、韮生の山峡に建つ記念館を訪れてみませんか。皆さまのよく耳にする秋や月をテーマにした曲をお楽しみいただけます。ぜひ、この機会に猪野々を訪れ、ヴァイオリンの音色の中、吉井勇が愛した静かな猪野々の夜を味わい、感じてください。

【日時】10月3日(土)
館内展示解説　18時～19時
コンサート　19時～20時

【場所】吉井勇記念館

【参加費】400円

【送迎バス】定員40名
香美市役所発　17時20分
記念館発　20時10分

※希望される方は、9月25日までにご連絡ください。

【ヴァイオリン奏者】古江佐和子さん（タチバナヴァイオリン教室、高知香南ジュニアオーケストラ講師。猪野々在住）

香美市童謡を楽しむ会　ミニコンサート　―小さい秋をみつけませんか―

童謡を楽しむ会の皆さんと、楽しく歌いませんか。島崎照代さん（メゾソプラノ）を講師に迎え、長井薫さんのピアノ伴奏にのせて、馴染み深い日本の曲を披露します。また、吉井勇作詞の『海の鳥』『わが涙』などもお聞きいただけます。歌の楽しさ、声の出し方を教えていただき、皆さん一緒に合唱しましょう。

【日時】9月26日(土)　14時～15時

【場所】吉井勇記念館

※参加費無料

合唱…市童謡を楽しむ会

【講師】島崎照代さん（日本演奏連盟会員、高知音楽協会代表、女声合唱団リングライン指揮者。土佐山田町在住）

【問い合わせ先】吉井勇記念館
☎58−2220